



9月議会 永田かつみ町議の一般質問

実りの秋を迎えましたが、台風の影響などでお米の収穫が平年より悪いと心配されています。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大が持続しており、感染防止と景気悪化の中で、国民生活は収入の減少など厳しい状況が続いています。

9月議会で、永田かつみ町会議員は、①コロナ対策 ②町内交通の整備 ③暮らしと子育て支援について、一般質問を行いました。

コロナ禍の避難所改善は急務

交流センターにエアコン設置を

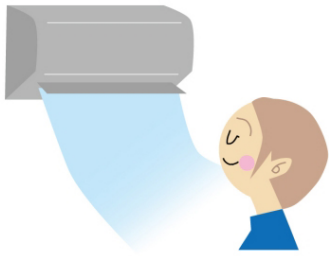
コロナ禍の下で、今年は台風9号・10号が相次いで襲来し、多くの町民が避難所を利用しました。ところが、地域交流センターの避難所にはエアコンがなく、避難環境として、劣悪すぎる実態です。

いま、政府の制度利用により、町の実質負担なしで設置できる条件があるのに、再三の要望にもかかわらず、町は取り組みを具体化していません。

死亡者も出ている。避難所へのエアコン設置の必要性は言を待たない。交流センター・体育館などは政府の緊急防災事業によって町の財政負担なしで実施できる。

避難所用としては自家発電内蔵型のエアコンも開発

質問 今年の8月、県内では過去最多となる516人が救急搬送されており、



ば良好な避難環境が必要と言うことは考えています。提案のあった緊急防災・減

災事業の活用が出来るというところで、研究させていたできます。

生保世帯のエアコン設置に支援を

全国でエアコンのない高齢世帯での熱中症死亡が頻発しています。今回は特に

普及についてどう進めているのか。

そうした対象が多い、生活保護家庭へのエアコン設置支援について提起しました。

町長 生活保護世帯のうち39世帯(27・8%)にエアコンが設置されていません。社会福祉協議会の生活福祉資金の貸付を活用して設置を進め、返済については生活保護費で負担するという対応となっています。

質問 佐々町の生活保護世帯でエアコンがない世帯は、どの程度あるか。県内のエアコン普及率は90・9%となっている。エアコン

を鮮明にすべきと考え質問しました。

コロナ禍のいまこそ、少人数学級を

現在、学校の教室では感染防止に必要な生徒同士の間隔が確保できないことから少人数学級の必要性が社会問題となっています。

行き届いた教育をすすめる上からも少人数学級の実現は長年要望が出されていますが、政府は40人学級に固執しています。

この機会に町としても立場

コロナ禍の下で40人学級ではソーシャルディスタンスを確保出来ないことがうきぼりとなり、コロナ感染防止の観点からも20人学級の実現を要望する運動が広がっています。こうした国民の声を押されて政府も改善の動きを見せています。

質問 少人数学級を実現するためには、教職員の増員は欠かせない。緊急を要する教室内での感染防止に向けて町として考えていることはあるか。

町長 全国知事会・全国町村会でも「緊急提言」をまとめている。少人数制の編成を可能とする教員の確保をお願いしている。